



コミュニケーションペーパー

2023
Spring & Summer

春夏号

VOL. 9

TAKE FREE

特集 子どもの音楽表現を考える
講師 明本 遥(音楽Ia(理論・声楽))

トピックス
日本ボランティア学習学会島根大会について
(大阪健康福祉短期大学学長代理) 余村 望

▶▶▶ 先輩に聞く！
障害者福祉施設の現場から(野廣 武之さん)

▶ 教員紹介
大阪健康福祉短期大学
学長代理・教授(地域福祉論) 余村 望

▶ オープンキャンパス

編集後記

子どもの音楽表現を考える

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み解くと、幼児教育における音楽では、子どもが音楽にかかわる活動を楽しみ、音楽を表現する楽しさを味わうことが大切にされていることがわかります。そして、「音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力の芽生えを養う」ことが教育の目標としても掲げられています。そのため、保育者をめざす学生にも同じように音楽は楽しいものだと感じてもらいたいと考えています。同時に、子どもの音楽に対する関心の芽生えを捉え、伸ばさせることのできる力を身につけることも望まれます。つまり、保育者をめざす学生は音楽を愛好するとともに音楽表現について考えることができることを求められます。そうした学生の育成のために行っている研究の一部を、今回紹介したいと思います。

音楽表現を通じて、前述したような子どもの音楽への関心の芽生えを捉え、伸ばさせる力・音楽を愛好する心を育てようとしたとき、そもそも幼児期の子どもはどのようにして音楽表現を創造しているのかを知っておかなければなりません。

幼児期の子どもの音楽表現の創造に関する先行研究を概観すると、子どもの内に蓄えられた音のイメージが音楽表現の創造につながり、音をいかに表現するかを試行錯誤する体験が、楽音(楽器音や歌声)の質感を見いだしていくことにつながるとされています。また、音や音楽的な要素を素材とした子どもの遊びを音楽表現のはじまりとして捉えて、子ども自身が多彩な音の知識や情報、イメージの獲得といった音体験を重ね、他者との共有や模倣を行うことによって、より発展した音楽表現活動の展開につながることも指摘されています。ただし、ここでの音楽表現につながる素材とは、音楽を構成している音素材のみにとどまりません。身の回りの音を構成する音素材をも含んでいます。例えば、自然の音や機械音、生活音、人の声といった、モノや人が関わって生み出される個々の音です。さらに、このような音素材のほか、視覚や触覚から得られた情報も包含されます。五



講師
明本 遥
音楽Ia(理論・声楽)

特集

感を通して収集された多様な情報が音楽表現のもととなるといえます。

そして子どもの音楽表現の過程に関して吉永早苗(東京家政学院大学教授)は、その生成過程には2つの構成要素があるとしています。この生成過程とはどのようなものなのでしょうか。

子どもの音楽表現とは、既成の音楽を再現することのみではありません。子どもは日々の生活のなかで、それぞれに感じたことを自分なりの音に置き換えながら楽しむことができ、これは音楽表現の1つであると捉えることができます。このような音楽表現が生成されるまでの過程として、吉永は、それまでに経験されてきたあらゆる感性的なインプットによって育まれる「感じる営み」から、「考える営み」を経て表現が生成され、音楽表現はこうした内的過程を循環的に展開することでつくられると提唱しています。

今回、研究の一部を紹介しましたが、先に述べたような、音素材や五感を通じた情報や環境を活用した子どもの音楽表現に寄り添い、適切に支援することを考えるとき、子どもの音楽表現の過程だけでなく、学生の音楽表現の過程を探ることも重要だと考えています。

そのため今後の研究の課題の一つとして、保育者をめざす学生の音楽表現の生成過程がどのように形づくられているのかを明らかにしていくことがあります。子どもの音楽表現にいっそう寄り添うことができるための授業の考案につなげていきたいと思っています。

【参考文献】

- ・安藤恭子(2021)「音楽聴取の実態と身近な音に対する意識との関連—保育者養成校の学生を対象とした質問紙調査から—」『保育文化研究』第12号、pp.51-52。
- ・吉永早苗(2016)『子どもの音感受の世界—心の耳を育む音感受教育による保育内容「表現」の探求』明文書林。

「日本ボランティア学習学会島根大会」

約1年前からお知らせしてきた「第25回日本ボランティア学習学会島根大会」が、「地域共生社会のボランティア学習～多世代がつながる地域づくり、人づくり～」をテーマに、昨年11月26日(土)、27日(日)の二日間にわたって開催されました。

関係の皆様のご尽力によって、当日は全国の学会会員、高等教育機関在学学生を中心にオンライン参加約70名、会場参加約200名と300名弱の参加がありました。ご参加いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

また、大会初日開会式には丸山達也島根県知事、上定昭仁松江市長にご臨席いただき、温かいお祝いの言葉を頂戴しました。重ねて厚くお礼申し上げます。

本大会では、大会趣旨に沿って、研究者のみならず島根県内の幅広い地域実践者にお越しいただきました。初日全体会では山陰中央新報社松村健次論説委員長長の講演を皮切りに、高校在学中に同級生が中心となって立ち上げた「NPO法人KEYS」の実践を藤原睦己事務局長に、自治体からはキャリア政策の視点から地域の様々な事業体が一つになって地域づくり、人づくりを進める雲南市の実践を吉山治副市長に、そして、国際的な視点からJICAの開発途上国におけるODA事業など国際開発コンサルタントとしての実績をバックボーンに、広島大学IDEC国際連携機構において環境教育の視点をもって行われている若者の社会参加促進の実践を石田洋子教授に発表いただきました。

翌二日目は、5つの分科会構成をし、島根県内の15の先進事例報告について活発な意見交換ができました。



島根県内の、地域をフィールドとして現在進行中の実践の豊富さは目を見張るものがありました。多くの研究者の方たちからもこの点を評価いただいたところでしたが、大会では、教育機関在学如何を問わず、若者の社会参加は、市民教育的機能を超えて、地域を支える戦力として期待され、すでにそれが必然となってきたことが実感できました。このことは、特に少子高齢化が顕著な島根県をはじめとしたいわゆる地方の地域生活機能維持の側面から欠かせない取り組みと言って良いように思います。学校教育と社会教育といった捉え方から脱皮して、統合された地域人教育が進められていることに新たな衝撃を受けました。本学においてもこうした学習の場を、更に高い質を求めて継続したいと思います。

最後に、本大会を支えていただいた皆様、協賛いただいた企業の皆様、全ての関係の皆様へ感謝をお伝えして、報告とさせていただきます。ありがとうございました。

大阪健康福祉短期大学松江キャンパス 学長代理 余村望
(第25回日本ボランティア学習学会2022inしまね事務局長)

教員紹介



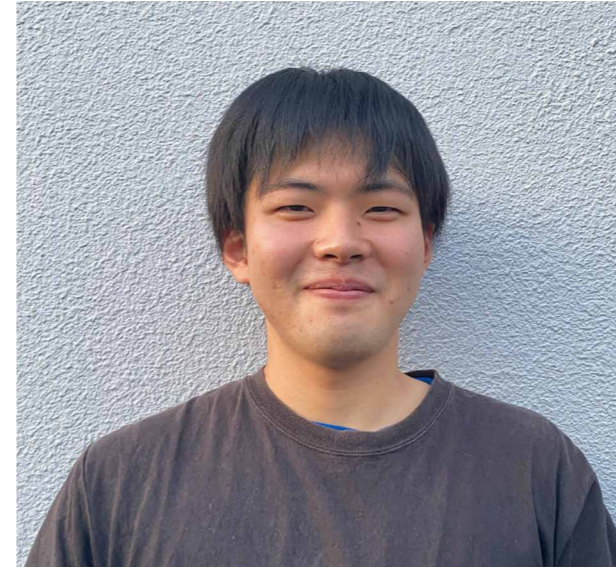
学長代理・教授(地域福祉論)

余村望

Q1 研究テーマと研究の目的について教えてください。

少子高齢化が進む現代において、団塊の世代(1947年～1949年の第一次ベビーブームの出生者)が後期高齢者となることによって顕著となる将来の社会保障制度改革上の論点を「2025年問題」と表現します。そして、そこで課題となるのが地域包括ケアシステムの構築です。私自身は、この「2025年問題」は、経済問題を軸に置いた制度存続の在り方の検討以上に、人が生まれて暮らし、最期を迎えるまでに地域社会が果たすことのできる役割とは何かを

地域住民が主体となって検討し、求められる社会を実現、構築することがテーマだと考え、地域包括ケアシステムのあり方を研究テーマに据えています。



障害者福祉施設の現場から

キラリ
仕事人

先輩たちに聞く！

野廣 武之さん(3期生)

学校法人 永島学園 出雲西高等学校卒
NPO 法人こだまに勤務

大学で得た忍耐力、挑戦力が今の私の支えです！

大学での学びの中から仕事で役に立っていることは？

私は卒業後、保育現場ではなく、授業で学んだ障がい者福祉の実態に興味を持ち、NPO法人こだまという障害者福祉施設に就職しました。

大学での学びの中で印象に残ったのは、情報共有の大切さです。実際に、保護者から伝えられたことをメモに残しておいたことがあり、その情報を運営の職員に伝えることで情報を共有し、保護者の要望に応えることができ、さらに信頼を得ることができたということがあり、大学での学びが現場でも役に立つことを実感し、2年間の学びはとても充実したものだと思いました。

現場にでて改めて思ったことは？

現場に出て改めて、環境構成は大切であると思いました。現場で声をかけられることがストレスで自分から入浴、排泄、食事等をしない利用者の方がおられますが、テレビを消す、好きなジャンルの音楽をかけるといった環境を少し変えるだけで

自分から主体的に行動する場面があり、利用者に関わる際は言葉がけのみに頼らず環境構成も意識しています。

仕事で心がけていることは？

現場で心掛けていることは、利用者との距離を縮めることです。それは保育の現場だけでなく、障害者福祉施設の現場でも大切であると考えています。利用者さんとの距離を縮めることは、「今何がしたいのか」「何を望んでいるのか」等理解することができ、より良い自立支援につながると考えています。距離を縮めるために私は余暇の時間を大切にしたいと感じ、利用者さんと一緒に楽しむことができるイベントを企画していくことが大切だと考え始めるようになりました。利用者さんが言葉がけに頼らず、「自分からやってみよう」と主体的に思うことができ、新しいことに挑戦できるようなイベントを考えていきたいと思っています。

みなさんへメッセージ

大学で得た忍耐力、挑戦力があって今の私がいいます。学生生活で学べることはたくさんあるので、社会に飛び立つことを意識しながら無駄にしないよう学生生活を送ってほしいと思います。社会人として共に活躍できることを楽しみにしています！

へのアプローチは課題を共有するものであるという考えから研究テーマとしました。

Q3 本学の教員として意識されていることはなんですか？

本学科の沿革を概観する時、前身である島根総合福祉専門学校の設立から関わったのはもう私一人だけです。当時から掲げてきた「一人ひとりへの行き届いた教育」の考え方は、学生個々の命と育ちを保障する意味から福祉と教育の理念を統合させた、当時もっとも新しい教育理念であり、

同時に地域づくりの理念でもありました。そこから、生活をフィールドとした研究という発想に辿り着き、現在もその考え方を最も大切にしています。

Q4 座右の銘やこだわりなど

座右の銘と言えるかどうかは分かりませんが、「この社会の中で存在以上の価値はない」という考え方をしています。ですので、私自身の生き方も「福祉とは存在肯定の科学である」に沿った在り様を心掛けています。

2022年度 入学試験日程

募集区分		選抜日	選抜方法	
			一般選抜	社会人選抜
後期	第5回	2023 2/4(土)	○	○
	第6回	2023 2/25(土)	○	○
	第7回	2023 3/11(土)	○	○
	第8回	2023 3/25(土)	○	○



オープンキャンパス開催!(予約制)

2023年 3/18(土)

時間 13:00~15:30 予定(受付12:30~12:50)

オープンキャンパスに参加を希望される場合は、事前にホームページまたはTEL.0852-67-3716からお申し込みください。



学校法人 みどり学園 大阪健康福祉短期大学

松江キャンパス



保育・幼児教育学科

島根県松江市西川津町4280

TEL:0852-67-3716 FAX:0852-67-3805

ホームページ <http://www.shimane.kenko-fukushi.ac.jp>

Eメール kouhou-shimane@kenko-fukushi.ac.jp



スマートフォン用

安来キャンパス



地域総合介護福祉学科

島根県安来市広瀬町広瀬753-15

TEL:0854-32-4198 FAX:0854-32-4197

ホームページ <https://www.yasugi.kenko-fukushi.ac.jp>

Eメール kouhou-shimane@kenko-fukushi.ac.jp



スマートフォン用

編集後記

今回の「キラリ仕事人」は、昨春、障害者福祉施設「NPO法人こだま」に就職した卒業生です。

在学中の彼は、自然体で笑顔が多く、そんな彼の周りには、笑顔が集まっていました。

「笑顔」は、相手に対して安心感を与えるだけでなく、見ている周りの人もハッピーな気分になれますよね。

これからも、その優しい笑顔で周りを幸せな気分にしてくれるよう応援しています。

(担当 宇山)



コミュニケーションペーパー

2023
Spring & Summer
春夏号

Vol. 9

Chouz(チョウズ)第9号 2023年2月1日発行

発行者：大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科

印刷：株式会社谷口印刷